

令和3年度 坂井高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
学習指導	学習意欲を高め、生徒の主体性を引き出し、わかりやすく楽しい授業に向けた授業改善に取り組む。	生徒の授業満足度は前年度から5ポイント以上高い92.9%で目標を上回った。特に2年生は前年度1年次に比べ約6ポイント上昇した。 意欲的に学習に取り組んだ生徒は84.3%で、こちらも前年度を上回った。	令和4年度開始の新学習指導要領は、「主体的・対話的で深い学び」の視点から生徒の学習を評価し、その結果を授業改善につなげる取り組みが求められている。一人一台タブレット端末を効果的に活用し、またその活用方法を教職員間で共有しながら授業改善を推進する。
	タブレット端末の機能を有効に活用した授業の実践や研究を推進する。	2学期以降、校内の通信環境が改善されたことで、一人一台タブレット端末を使った授業が増加した。研究授業でも積極的に活用する様子が見られた。臨時休業等に対応するため、オンライン授業の実施に向けて校内研修を実施した。	授業での活用方法は、教科別に校内外で行われる研究授業や、校内の授業公開週間で相互に授業見学をしながら情報を収集する。これらの情報は教科に限らず学校全体で共有し、効果的な指導につなげていく。
生徒指導	進んで挨拶する態度や身だしなみに気をつけ、礼儀正しく生活する態度を育成する。	礼儀正しい生活ができた生徒、ルールやマナーを守った生活ができた生徒、いずれも95%以上で、目標を大きく上回ることができた。	毎朝、生徒指導部と学年会が実施する挨拶容儀指導が定着し、生徒は落ち着きを見せている。一部の生徒の中には緩みがみられることから、引き続き、教員全体の共通理解のもとで生徒指導に取り組む。
	生徒の主体的活動や行事等への参加を促し、学校行事や生徒会活動を活性化する。	学校全体またはコース毎の行事等に積極的に取り組んだ生徒は96.3%で目標を大きく上回った。行事が中止・縮小した昨年度に比べ、今年度は感染防止対策を取りつつ概ね実施できたことで、生徒の積極性が高まった。	新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない状況ではあるが、引き続き、最善の感染防止対策に取り組みながら、学校行事をできるだけ実施する。 校則の見直し等、生徒会が中心となって、より主体的に学校運営に参加する機会を設定する。
進路指導	職業体験、企業見学、説明会、就職模試、個別面接等を通して、就職支援を強化する。	明確な進路目標を持ち、その実現に取り組めた生徒は昨年度を上回る89.6%で、目標を達成した。進路情報に関する生徒評価は昨年度より約3ポイント上昇した。13.2%の保護者が進路情報が適切ではない、と回答しており、この対応が課題である。	保護者の方による次年度に向けたさらなる取り組み要望のうち、「就職指導の充実」が2番目に高い。コロナ禍でもできるだけ保護者の方が参加できるよう参集型の説明会を早期に実施し、企業情報の提供を行っていく。
	PUTを活用した進学対策講座、個別添削等の充実を図り、進学支援を強化する。	3年間の見直し、計画的にPUTを実施したことで、進学や資格取得の成果が高まった。昨年度に続き、複数の地元国公立大学合格者を輩出し、私学4大や専門学校等を含め、概ね希望通りに進学できた。	保護者の方による次年度に向けたさらなる取り組み要望のうち、「進学指導の充実」が3番目に高い。引き続き、PUTを柱として、進路指導部と関係教科・コースが連携し、一人ひとりの進路目標の実現に向けて指導の充実を図る。
安全教育	心身の健康状態を把握し、疾病を予防するとともに健康の管理ができるよう指導する。	適切な判断で保健室を利用したと答えた割合は昨年同様約98%で目標を達成した。 感染拡大が顕著な時期は、昼食時の黙食指導を強化した。新型コロナ感染予防の重要性は折に触れ指導してきたが1月にクラスターが発生した。	昨年度に続き、朝の健康観察はルーティン化されている。 引き続き、マスク着用、手洗い、手指消毒、定期的な換気、黙食等の感染防止対策の取り組みを、校内で再確認しながら徹底していく。
	危機管理マニュアルを全面的に見直し、感染症対策等の徹底を図る。	国・県の通知を踏まえ、新型コロナ感染症予防策の点検を行った。感染力が高い新型コロナウイルス変異株が拡大した時期でも、感染防止の基本的対策に変更がないことを確認できた。	今後も、新たな変異株が出現することが予想され、その特性によっては感染防止策の見直しを迫られる可能性がある。現行の感染対策を徹底しつつ、国・県の指導に沿いながら臨機応変に対応することを優先させる。

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
専門教科指導	実践的・体験的な学習を通して、職業人としての意識づけに努める。	専門教科の学習に積極的に取り組んだ生徒は96.6%で、昨年度を1ポイント上回った。専門教科の学習や実習内容に満足と回答した保護者の方も昨年度を約2ポイント上回り91.8%であった。	マイスター・ハイスクール事業を活用し、地域や地元産業等と連携しながら、より魅力のある専門学習を推進していく。さらに、学科間の横断的な学びの充実にも取り組み、地域に貢献できる学びにつなげたい。
	資格試験や検定試験への取り組みを通して、進路意識の向上に努める。	資格・検定試験で1つ以上の資格を取得した生徒は79.1%で、目標を達成した。3年生は、昨年度同学年と比較し約5ポイント上昇したが、2年生は約4ポイント低下した。挑戦したが取得できなかった生徒が14.3%と昨年度をやや上回った。	コロナ禍では、次年度も検定試験の中止や回数の減少による影響は避けられないが、資格取得の意味・価値を生徒に伝え、取得への意欲が低下しないよう指導していく。また、これまで以上に、社会で実践的に役立つ資格を取得できるように指導体制や個人指導の充実に、継続して取り組む。
教育相談	生徒理解を深め、個々の生徒にあった支援に積極的に取り組む。	生徒の特性に応じた支援を行うことに努めた教職員は85.9%で目標を達成した。しかし、支援を行おうと思ったが具体的な支援活動はできなかった教職員の割合は、昨年度の約2倍となる14.1%となった。特別支援教育コーディネーター研修受講者による校内研修会を開催できた。	多様化した生徒に対する柔軟な支援がますます求められる状況である。校内外での研修を通じて、具体的な支援活動の理解を図る。教育相談部を核とし、外部機関とも連携した支援体制の更なる強化にも取り組む。
	抱えている問題に適切な方法で対処する力を育成する。	困ったことが生じたとき「適切に行動できた」「適切に行動できたことがあった」と回答した生徒の割合は昨年度をやや上回り95.9%で目標を達成した。	ロングホームや各種集会などを通じて人間関係の円滑化に関する指導を継続して実施する。また、問題を一人で抱え込まず、周囲の信頼できる友人や大人等に相談できるようSOSの出し方教育にも取り組む。
主体的な諸活動	休養日の設定と主体的練習計画で、心身に充実した活動にする。	部活動の取り組みが充実していた生徒が82.2%で、目標を達成した。コロナ禍での部活動は、平日の活動時間短縮や休日の活動自粛など制約が多い。その中で、顧問が生徒と相談し、生徒の意欲を高め主体的に活動できるよう工夫することができた。	次年度も新型コロナの収束が見込まれない状況であり、十分な感染対策の下で、様々な制約を受けながらの活動が予想される。その中で、生徒が目標を見失わず、その実現に向けて主体的に取り組めるように、顧問は外部人材も活用しながら支援していく。
	専門知識や教養のため主体的に読書に取り組み、継続した読書の時間を増やすことに努める。	前年に比べ学校や自宅等で読書をする機会や読書の冊数が増えた生徒は35.1%で目標を下回った。図書館の本や廊下の新聞記事などの掲示物を見ている生徒は4割で全体の半数に満たない。	引き続き、朝読書に取り組み、読書習慣の定着を図っていく。今年度のビブリオバトル全国大会で準優勝を獲得する生徒が出ている。このような成果を活用し、読書の魅力を全生徒に発信する手立てを見直し、図書室の利用促進につなげる。
魅力発信	中学生やその保護者にわかりやすい広報ツールを開発する。	昨年度開設した中学生向き学校ホームページについて、動画の一部を今年度用に修正した。体育祭の様子を収めた動画を授業公開週間中に校内で上映した。マイスター・ハイスクール事業の取り組みをまとめた通信を定期的に発行し、近隣中学校を配布した。	引き続き、中学校での学校説明会等の機会を利用して、学校ホームページ上の紹介動画の周知を行う。今年度撮影したマイスター・ハイスクール事業の取り組み動画もホームページ上に掲載し、通信の発行と合わせて魅力発信に努める。
	コースの専門性を生かした地域課題解決の研究を通して地域貢献を進める。	マイスター・ハイスクール事業を活用した地域貢献活動として、坂井市役所の情報交換アプリ開発や地域企業と連携したECショップの開設等に取り組んだ。	さらにマイスター・ハイスクール事業を活用し、次世代の産業人材育成を目指していく。各コース独自の魅力や学科連携した魅力を創出し、内外にアピールできるものに進化させる。